



写真管理・出来形管理

写真管理

1 写真管理起動	1
2 写真の取込	2
3 分類作成	3
4 写真の仕分け	3
5 写真情報入力（個別）	5
6 出来形連動	6
7 写真情報入力（一括）	9
8 アルバム作成	9

アルバム編集

1 アルバムへの加筆	12
2 フォームの変更	13
3 アルバムの印刷	14
4 写真管理からアルバム起動	15

出来形管理

1 出来形管理起動	16
2 分類作成	16
3 帳票の選択	17
4 条件設定	18
5 測点入力	20
6 設計値・実測値入力	20
7 フォーム選択と出力設定	21
8 成果編集	23
9 印刷	23
10 保存	24

写真管理

1. 写真管理起動

EX-TREND 武蔵 写真管理を操作し、取り込んだ工事写真でアルバムを作成しましょう。

EX-TREND 武蔵 インデックスで作成した電子納品をおこなわない工事を選択後の画面からご説明いたします。

プログラム一覧から「写真管理」をクリックし、「写真管理をおこなうにはここをダブルクリックしてください」をダブルクリックします。

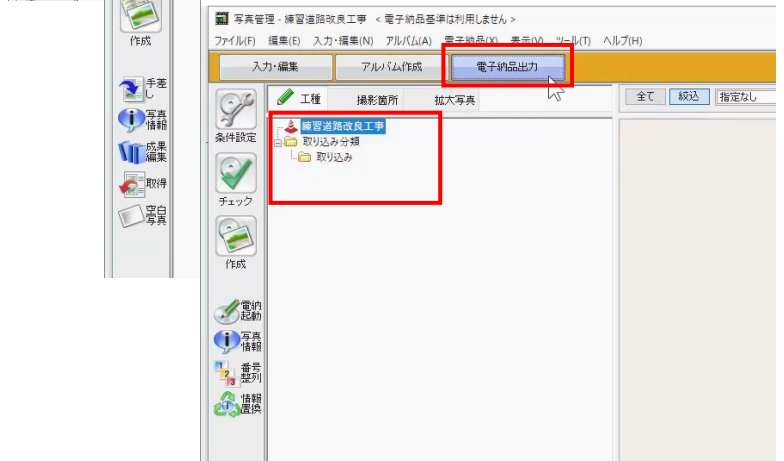
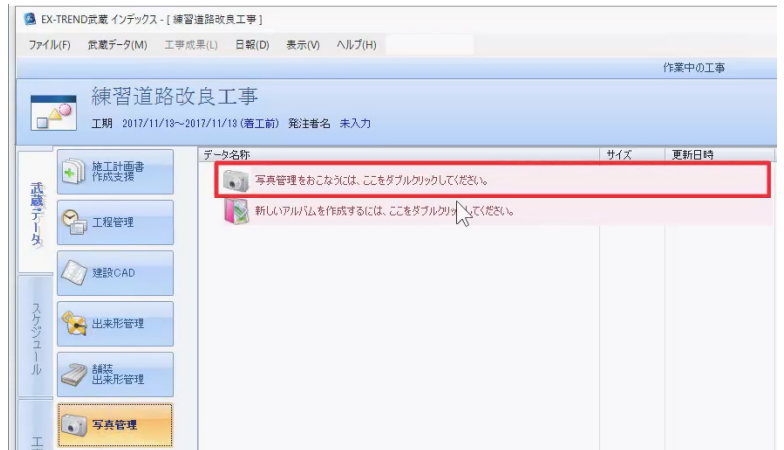
工事作成後、初めて写真管理を起動すると、「工事テンプレート読込」ウィンドウが表示されます。

今回は、写真取り込み後に設定するため、ここでは「終了」をクリックして閉じます。

写真管理では、左から、コマンドバー、分類ツリー、写真ビューを表示し、「入力編集」「アルバム作成」「電子納品出力」の3つのステージを切り替え、作業をおこないます。

3つのステージでは、それぞれのステージに関連する機能を左側のコマンドバーに表示し、ステージごとに青、ピンク、オレンジで画面回りを表示します。

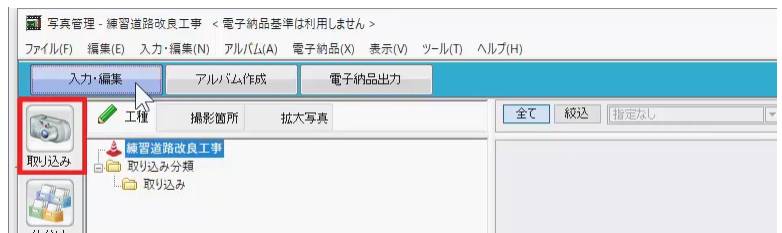
分類ツリーでは、各分類名に仕分けした写真の枚数が表示され、写真ビューに選択した分類の写真を表示します。



2. 写真の取込

写真を取り込みましょう。

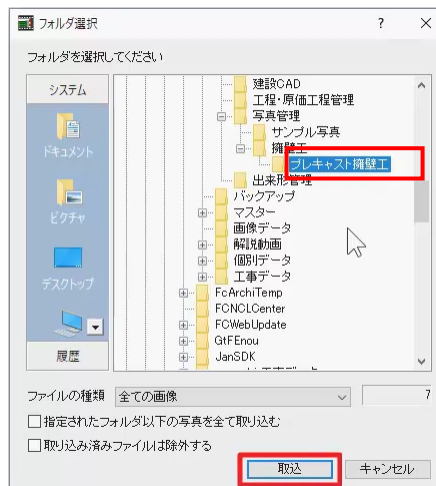
【入力編集】 ステージで、コマンドバーより【取り込み】を選択します。



今回は、取り込み元で【フォルダ】を選択し、取り込み先で、【新しく「取り込み分類」を作成して取り込む】【ユーザー指定の取り込み分類】をON、名称に今日の日付が表示されていることを確認し、【OK】をクリックします。



【フォルダ選択】 ウィンドウで、インストール先のFCAPP¥EX-TREND 武蔵¥サンプル¥写真管理¥擁壁工¥プレキャスト擁壁工¥を選択し、【取込】をクリックします。



完了のメッセージは【OK】をクリックします。

分類ツリーの「取り込み分類」以下に日付のフォルダが作成され、写真ビューで取り込んだ写真が確認できます。

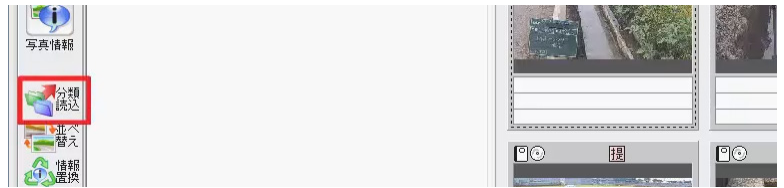


3. 分類作成

分類を作成しましょう。

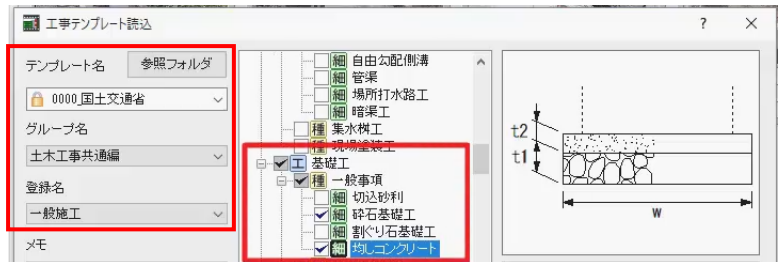
今回は、道路改良工事での L 型プレキャスト擁壁設置工事の分類を読み込みます。

コマンドバーより [分類読込] を選択します。

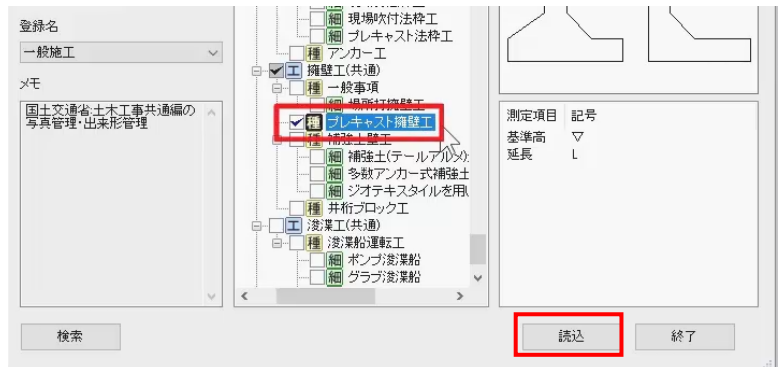


[工事テンプレート読込] ウィンドウで、テンプレート名「国土交通省」、グループ名「土木工事共通編」、登録名「一般施工」を選択します。

分類ツリーより、「工種：基礎工」-「種別：一般事項」-「細別：砕石基礎工」と「細別：均しコンクリート」を ON、



「工種：擁壁工（共通）」-「種別：プレキャスト擁壁工」を ON にし、[読込] をクリックします。



[工種] タブの分類ツリーに分類が追加されたことを確認し、[工事テンプレート読込] ウィンドウは [終了] をクリックして閉じます。

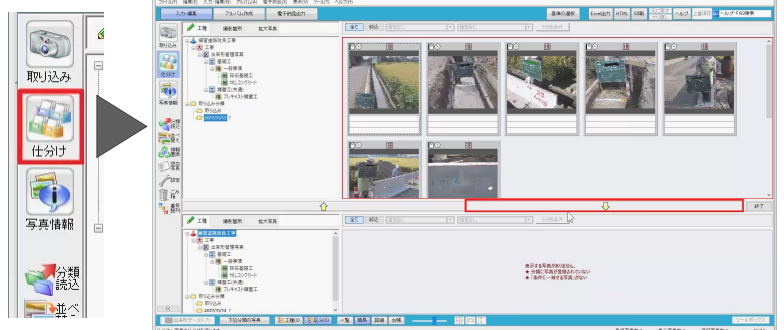


4. 写真の仕分け

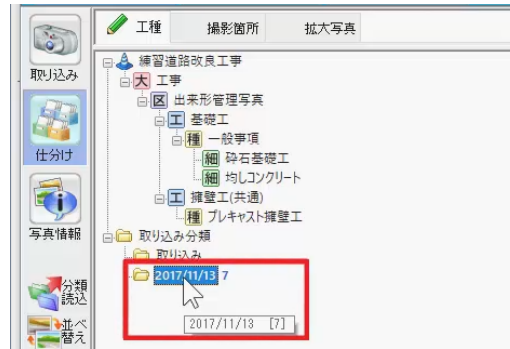
それぞれの写真を移動し、仕分けをおこなきましょう。

コマンドバーより [仕分け] を選択します。

画面が上下に分かれ、間に上向きと下向きの矢印がそれぞれ表示されます。



上画面の分類ツリーで、取り込み分類下の日付の分類を選択します。

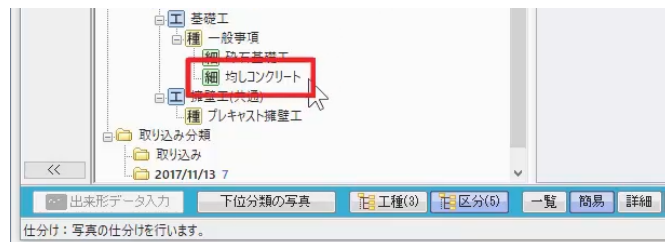


最初の写真を選択し、写真の周囲が緑になった状態で、[拡大写真] タブを選択します。

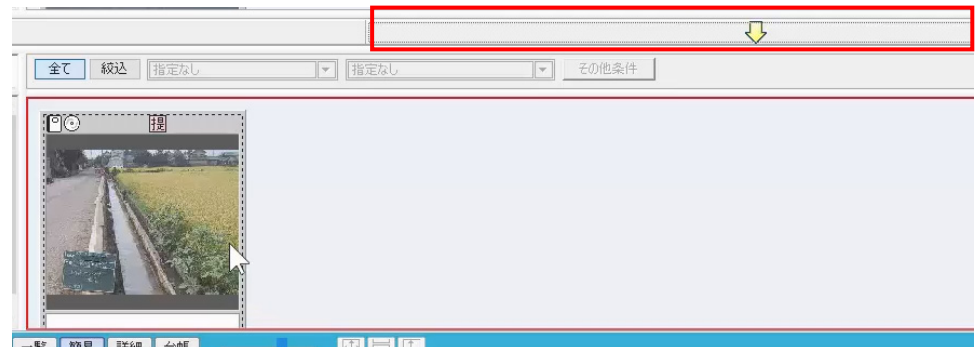
マウスの左ボタンドラッグで黒板を拡大します。



この写真は「基礎コンクリート」のため、下画面の分類ツリーは「均しコンクリート」を選択し、上下の画面の間にある下向きの矢印をクリックします。



上画面で選択した写真が下画面の「均しコンクリート」へ移動します。



同様の手順で、他の写真もそれぞれの分類ツリーへ移動しましょう。

次の写真を選択し、周囲を緑にしたら、[拡大写真] タブで黒板を確認し、画面下で移動先の分類を選んで下向き矢印をクリックします。



「プレキャストブロック」の写真と、黒板の無い擁壁の写真は「種別：プレキャスト擁壁工」へ移動します。



残りの1枚も仕分けましょう。



仕分け終了後、コマンドバーより「仕分け」をクリックし、仕分け用の画面は終了します。



5. 写真情報入力（個別）

写真の情報を入力しましょう。

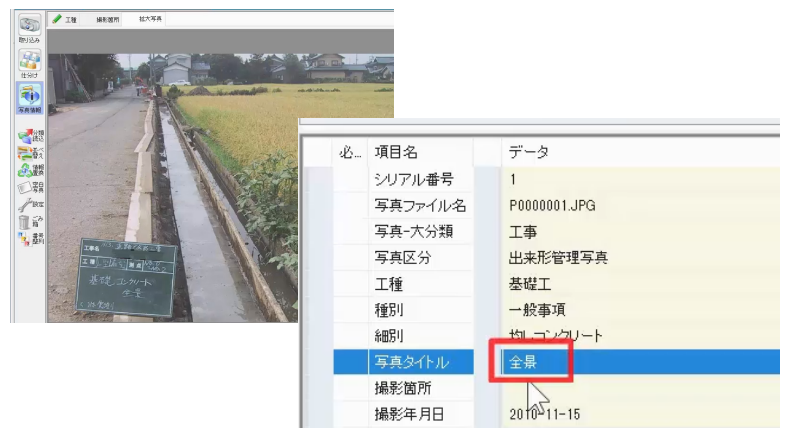
分類ツリーより、「細別：均しコンクリート」を選択し、写真ビューに表示された3枚の写真の内、最初の写真をダブルクリックします。



コマンドバーの「写真情報」が選択された状態に切り替わり、選択した写真が画面左側に表示され、右側には写真ビューと情報入力画面が表示されます。

今回は、後ほど作成するアルバムに表示させるため、「写真タイトル」を入力しましょう。

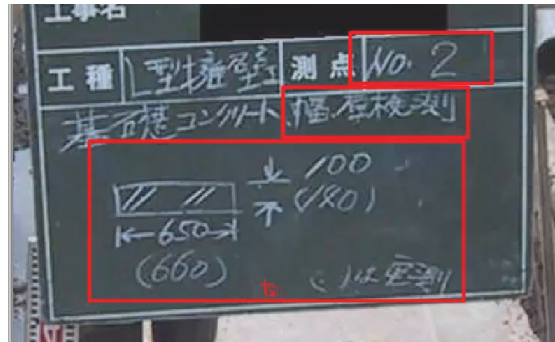
この写真は、「全景」の写真であることが確認できるため、「写真タイトル」横のデータセルに「全景」と入力し、Enterキーを押します。



次の写真を選択し、写真ビューを確認すると、入力した情報が写真の下に表示されます。



同様に黒板を拡大すると、この写真は「幅厚（はばあつ）検測」の写真であることが確認できます。



また、この写真は、測点「No.2」の写真で、幅厚の「設計値」と「実測値」が記載されていることが分かります。

細別	均しコンクリート
写真タイトル	幅厚検測
撮影箇所	
撮影年月日	2010-11-15
施工管理値	
代表写真	

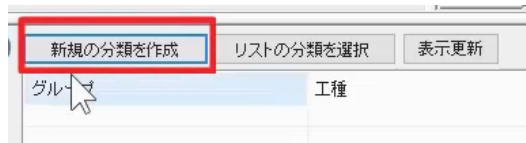
まず、「写真タイトル」に「幅厚検測」と入力し、画面左下の「出来形データ入力」をクリックします。



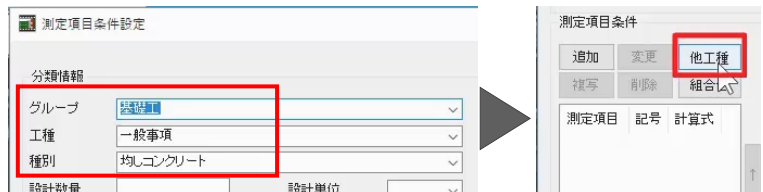
6. 出来形連動

EX-TREND 武蔵 出来形管理プログラムの入力画面が開きます。

「出来形データを入力するには」と表示されるため、「新規の分類を作成」をクリックします。

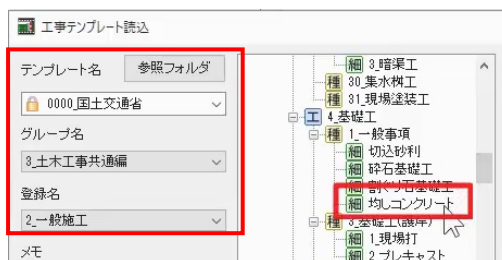


【測定項目条件設定】ウィンドウで写真の分類名が表示されます。

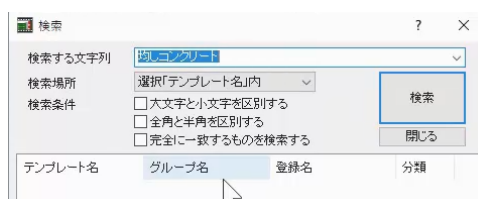


測定項目条件より【他工種】をクリックします。

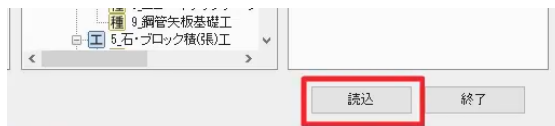
【工事テンプレート読込】ウィンドウが表示されるため、テンプレート「国土交通省」、グループ名「3_土木工事共通編」、登録名「2_一般施工」を選択し、分類ツリーより、「4_基礎工」-「1_一般事項」-「均しコンクリート」を選択します。



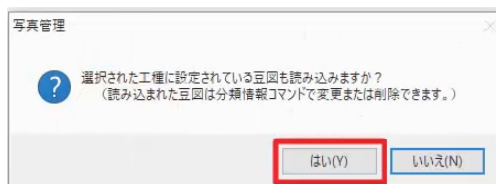
使用する分類が見つからない場合は、検索機能で分類を探すことも可能です。



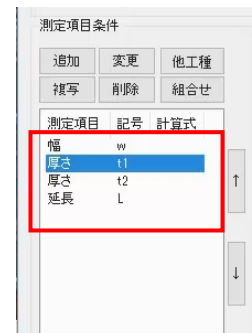
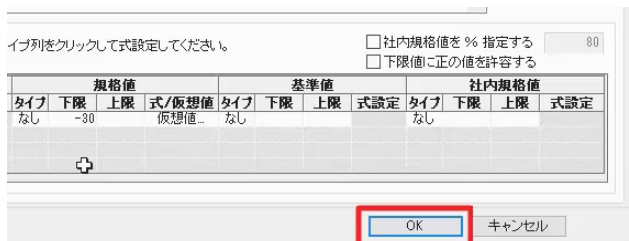
分類を選択後、「読込」をクリックします。



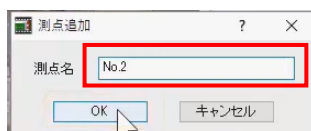
豆図の読み込み確認メッセージは「はい」をクリックします。



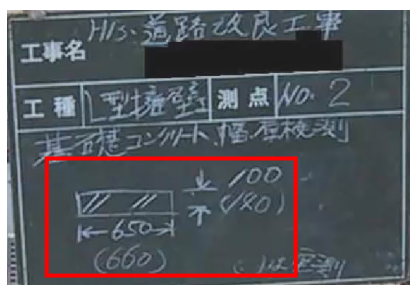
出来形管理基準に記載されている、「測定項目」、「規格値」の上限、下限が取り込まれたことを確認し、「OK」をクリックします。



「測点追加」ウィンドウが表示されるため、測点名に「No.2」と入力し、「OK」をクリックします。



画面下の表の左端に、先ほど入力した測点名が表示されます。



再度、写真を拡大し、1 行目「幅」の設計値に「650」、実測値に「660」と入力して差を確認します。

続けて、2 行目「厚さ」の設計値に「100」、実測値「140」と入力します。

測点名	選択	測定項目		設計値	実測値	単位	差	
		項目名	記号				1	単位
No.2	1	幅	w	650	660	mm		
	2	厚さ	t1	100	140	mm	40	mm
	3	厚さ	t2			mm		
	4	延長	L			m		

写真ビュー下の写真情報入力画面で、「施表」ボタンをクリックし、「施工管理値表」が見えるように設定します。



幅と厚さの選択セルに「○」を付けます。

測点名	選択	測定項目	設計値
No.2	<input type="radio"/>	幅	650
	<input type="radio"/>	厚さ	100
	<input type="radio"/>	厚さ	
	<input type="radio"/>	延長	

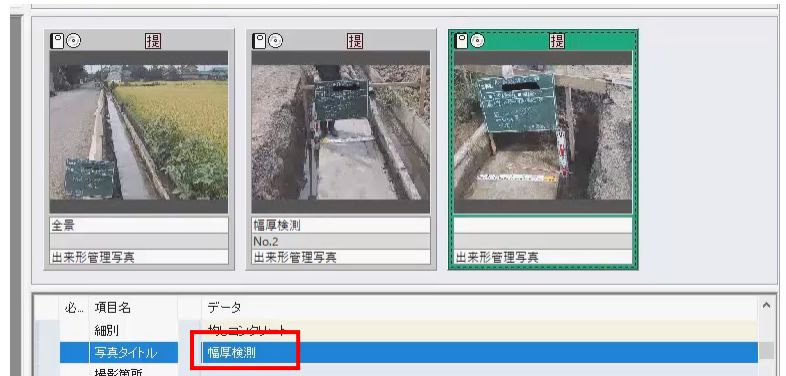
アルバムに表示する「設計値」「実測値」が「施工管理値表」に取り込まれます。

「出来形データ入力」で入力した値は出来形管理プログラムのデータとして保存され、各測定項目の「選択」セルに○をつけ、ることで、電子納品やアルバムに連動する写真管理プログラムのデータとして保存することができます。

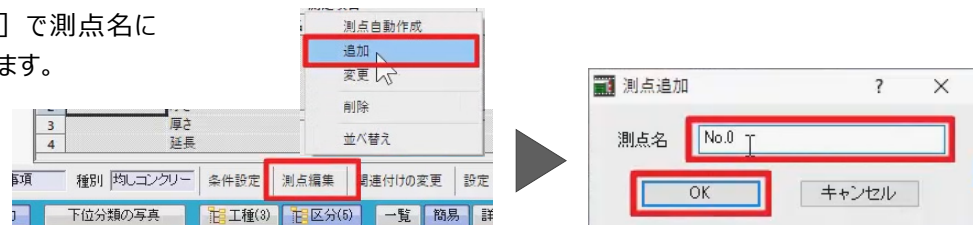
出来形管理と連動中			
施工管理値表			
項目名 (記号)	設計値	実測値	差
1 幅(w)	650mm	660mm	10
2 厚さ(t1)	100mm	140mm	40

単位	差	単位	規格値	上限
660 mm	10	mm	0	
140 mm	40	mm	-30	

続けて、写真ビューより次の写真を選択し、「写真タイトル」に先の写真と同様「幅厚検測」を入力します。



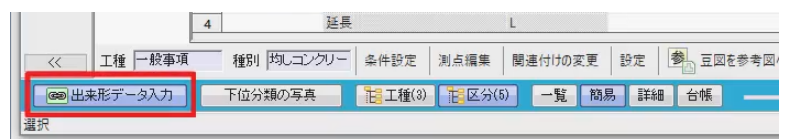
画面下の「測点編集」 - 「追加」で測点名に「No.0」と入力し、「OK」をクリックします。



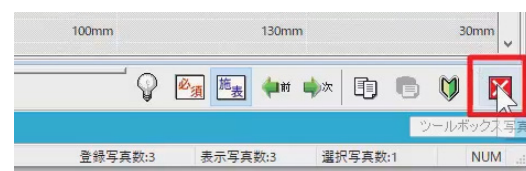
幅、厚さの設計値は先ほど入力した値が入っているため今回は変更せず、幅の実測値「665」、厚さの実測値「130」を入力し、選択セルに○をつけます。

測点名	選択	測定項目		設計値	実測値		単位	差	単位
		項目名	記号		1				
No.0	<input type="radio"/>	幅	w	650	665	mm	15	mm	
	<input type="radio"/>	厚さ	t1	100	130	mm	30	mm	
	<input type="radio"/>	厚さ	t2			mm		mm	
	<input type="radio"/>	延長	L			m		mm	

入力後、画面左下の「出来形データ入力」をクリックし、出来形の入力画面は終了します。



写真ビューで写真をダブルクリック、または右下の写真情報を閉じるボタンをクリックし、分類ツリー画面に戻ります。



出来形管理プログラムと連動した分類には、分類名横に「D」が表示されます。



7. 写真情報入力（一括）

次に、分類ツリーより「プレキャスト擁壁工」を選択します。

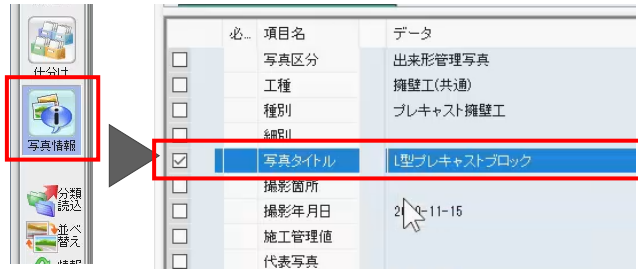


ここでは、すべての写真に対して一括で「写真タイトル」を入力しましょう。



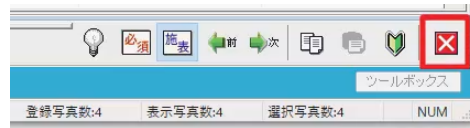
マウスで左クリックしながらドラッグし、写真ビューの写真を全て選択します。

コマンドバーより「写真情報」を選択します。写真情報の入力画面が表示され、それぞれの項目左にチェックボックスが表示されます。



一括入力する項目のみチェックを ON にするため、今回は、「写真タイトル」のみチェックが ON の状態で、「L 型プレキャストブロック」と入力し、Enter キーを押します。

写真ビューで写真をダブルクリック、または右下の写真情報を閉じるボタンをクリックし、分類ツリー画面に戻ります。



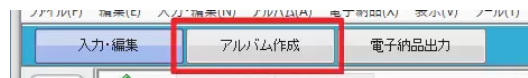
すべての写真タイトルに、「L 型プレキャストブロック」が入力されたことが確認できます。



8. アルバム作成

アルバムを作成しましょう。

画面左上の「アルバム作成」をクリックします。



アルバムは、写真ビューに表示された写真で作成するため、全ての写真でアルバムを作成する場合は、分類ツリーより工事名称を選択します。



ただし、「取り込み分類」以下にある写真はアルバム作成の対象外となります。

まずは、アルバムの作成方法を確認しましょう。

コマンドバーより「条件設定」を選択します。



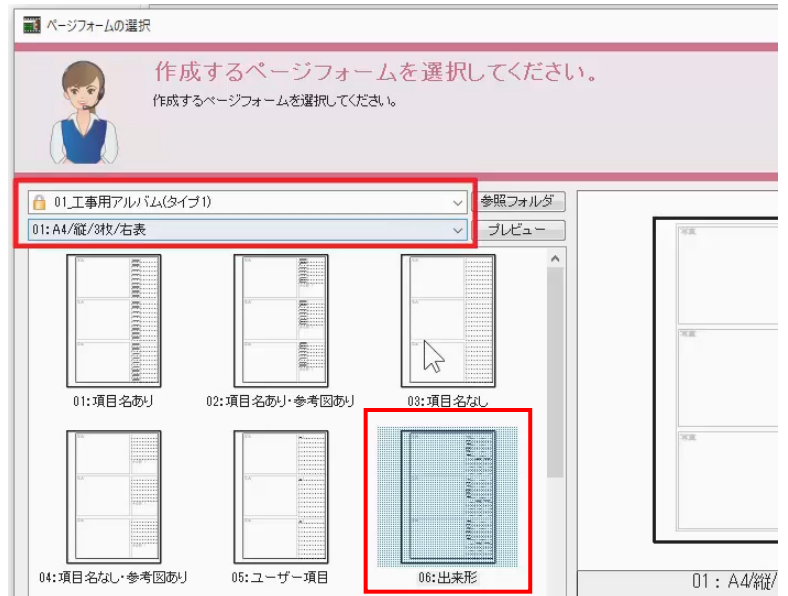
【作成条件設定】ウィンドウが開き、「表紙」と「ページ」のフォームが表示されます。

今回は、「任意」を選択し、その下の「ページ」をクリックしてフォームを選択します。

【ページフォームの選択】 ウィンドウが開き、登録されているフォームが表示されます。

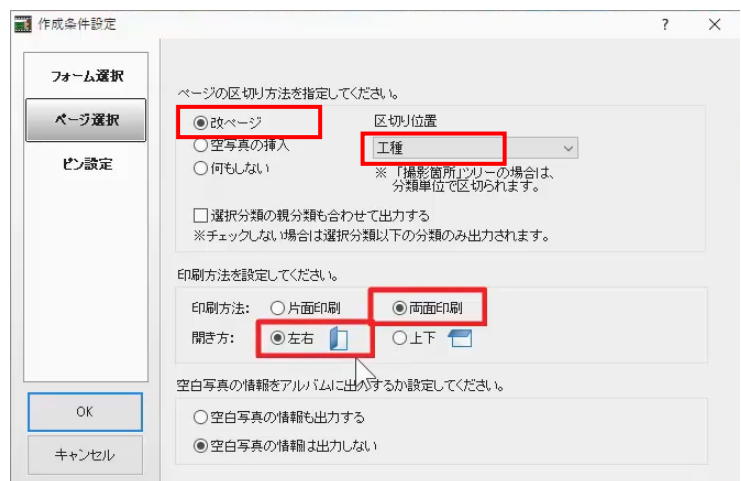
上の欄をクリックすると、「ユーザー定義フォーム」や「県別フォーム」などのグループが一覧表示され、さらに、その下の欄をクリックすると、左表や A3 版などのフォームが一覧に表示されます。

今回は、「01：工事用アルバム（タイプ 1）」、「01：A4/縦/3枚/右表」を選択し、一覧から「06：出来形」を選んで【OK】をクリックします。



次に、改ページの設定や、印刷方法の設定を確認しましょう。

【ページ選択】を選択します。
今回は、【改ページ】を ON、【区切り位置】で「工種」を選択し、工種で改ページする設定にします。
印刷方法は【両面印刷】、開き方は【左右】を ON にして、【OK】をクリックします。



アルバム作成前にプレビューで確認しましょう。

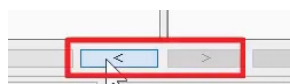
コマンドバーより【プレビュー】を選択します。
画面上に写真が入った状態のアルバムが表示されます。

プレビュー画面で、マウスのホイールボタンを奥へ転がすと、マウスの位置を中心に拡大し、手前に転がすと、縮小します。

また、両ボタンで右下にドラッグして拡大、右上へドラッグして全体に戻せます。
マウスホイールは上から押し込むと手のマークに変わり、そのままドラッグで移動ができます。



他のページも確認してみましょう。



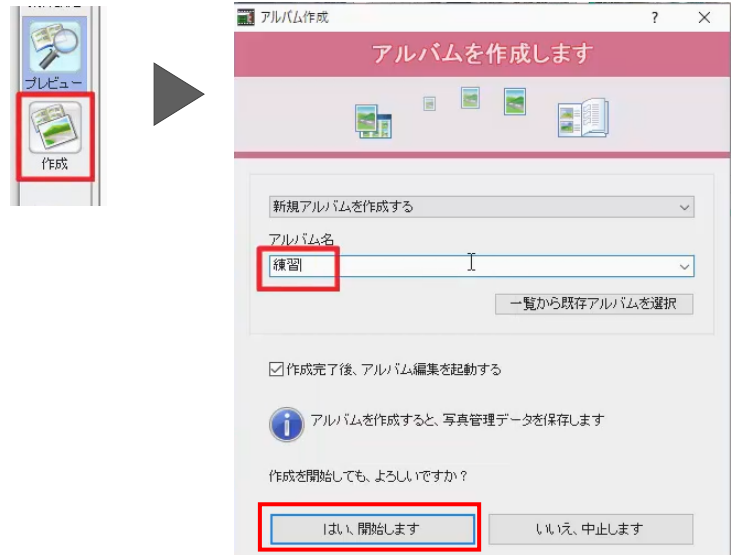
アルバムを作成しましょう。

コマンドバーより [作成] を選択します。

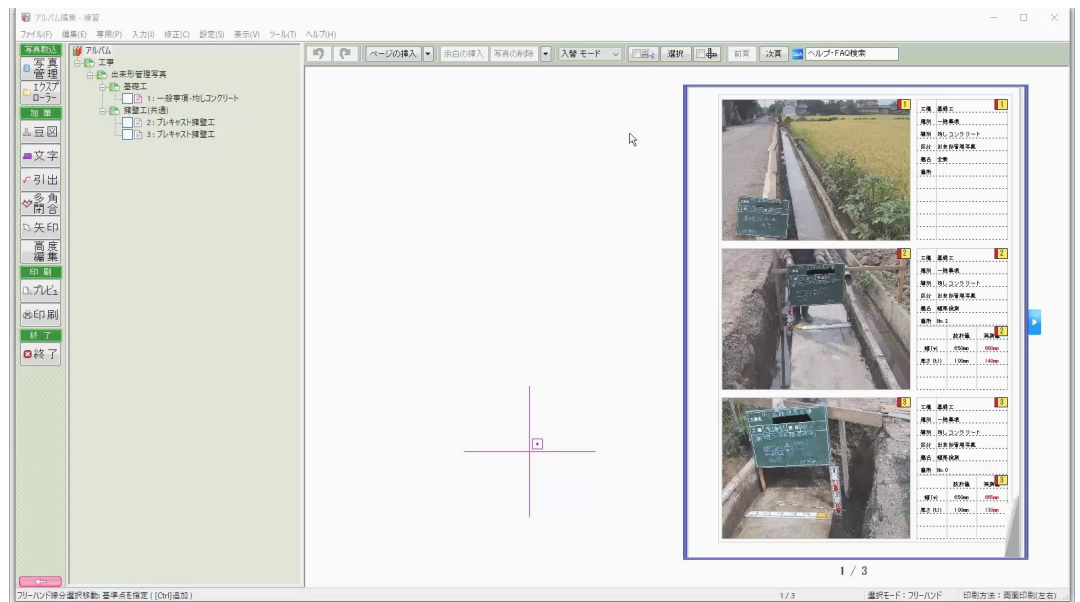
[アルバム作成] ウィンドウが表示されます。

「新規アルバムを作成する」と表示されていることを確認し、アルバム名に「練習」と入力します。

[はい、開始します] をクリックします。



アルバム編集画面に切り替わります。



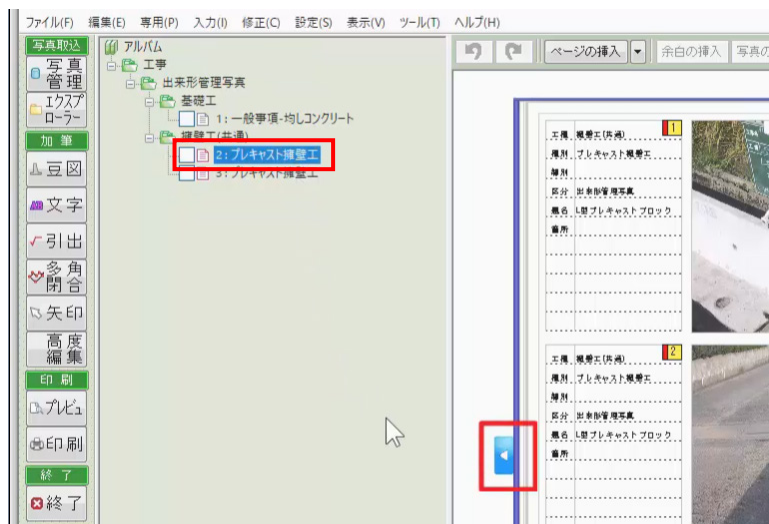
アルバム編集

1. アルバムへの加筆

アルバム編集での機能を確認してみましょう。

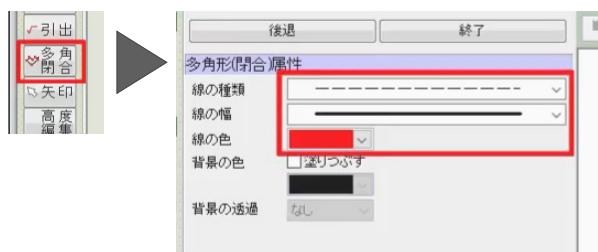
表示するページを切り替えます。

画面左側、ページツリーよりページを選択、またはイメージビューの端に出る▲マークにマウスを合わせてクリックすると、表示するページが切り替わります。



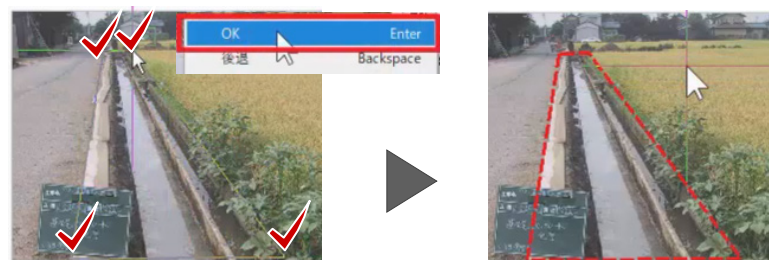
1 ページ目 1 段目の写真に、施工範囲を図示しましょう。

ガイドバーより [多角閉合] を選択します。
ページツリーが多角（閉合）属性に切り替わります。



線の種類は点線、線の幅は上から3つ目、線の色は赤に変更します。

写真の基礎コンクリートの範囲をクリックし、最後は右クリック [OK] で確定します。



多角形（閉合）属性の [終了] をクリックします。



[高度編集] を選択します。
ガイドバーが高度編集用に切り替わります。

[加筆] - [吹出] を選択し、線の色を赤、テキスト属性に「施工範囲」と入力し、サイズを 7.0、色を赤に変更します。



吹き出しタイプで形を選択し、写真上で、文字の開始位置、終了位置をクリックして配置します。



イメージビュー上でマウス右クリック [中止] をクリックします。

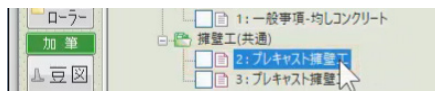
ガイドバーより [終了] - [高度編集終了] を選択し、ガイドバーを元に戻します。



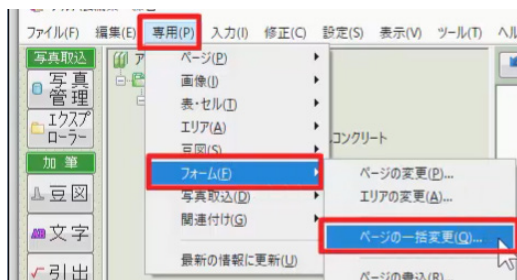
2. フォームの変更

アルバムフォームを変更してみましょう。

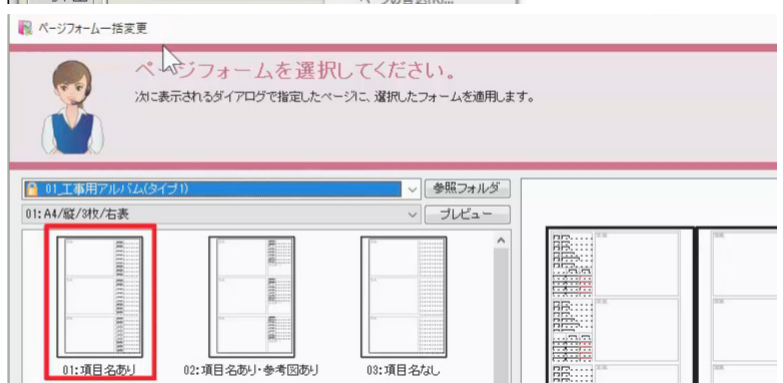
ページツリーで2ページ目の「2: プレキャスト擁壁工」を選択します。



メニューバーより [専用] - [フォーム] - [ページの一括変更] を選択します。



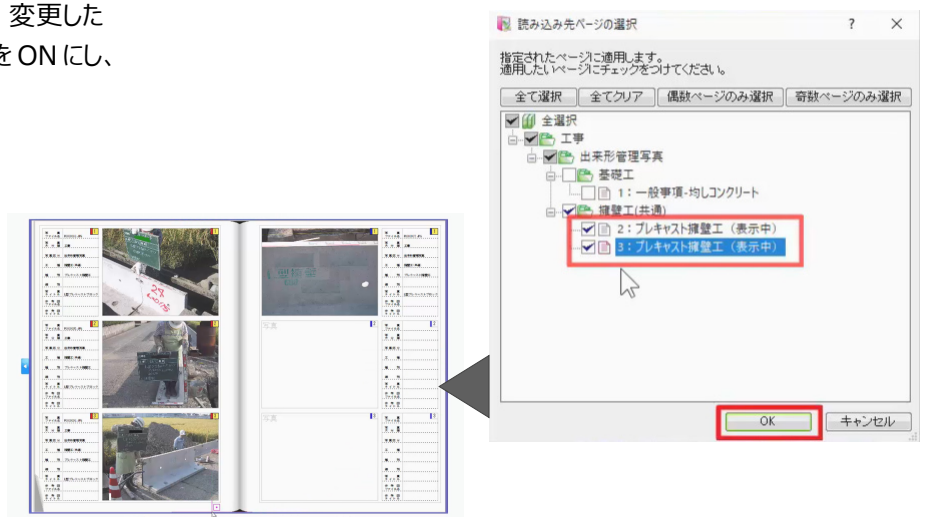
[ページフォーム一括変更] ウィンドウで、別のフォーム、ここでは「01: 項目名あり」を選択し、[OK] をクリックします。



[読み込み先ページの選択] ウィンドウで、変更したいページ、ここでは2ページ目と3ページ目をONにし、[OK] をクリックします。

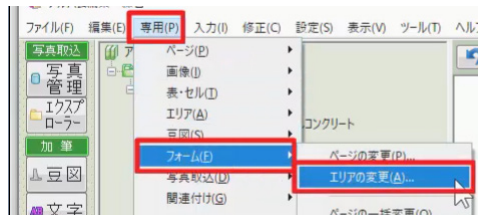
確認メッセージは [はい] をクリックします。

フォームが変更されたことが確認できます。



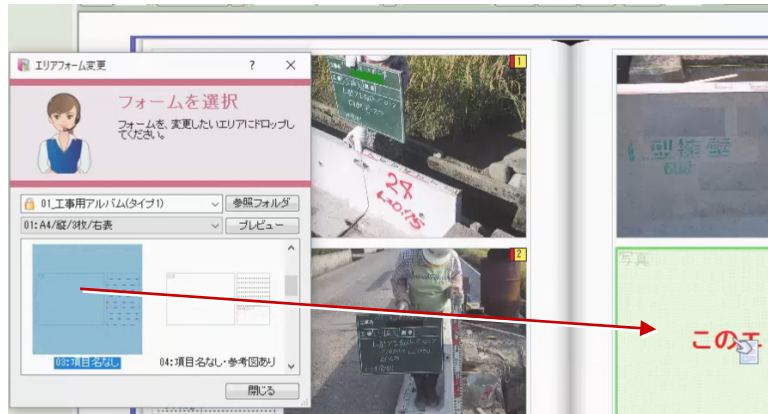
3 ページ目の空白部分のフォームだけ変更してみま
よう。

メニューバーより [専用] - [フォーム] - [エリア
の変更] を選択します。



「03：項目名なし」を選択し、空白部分の上へドロ
ップします。

「このエリアに読み込み」と表示されたらマウスを放しま
す。



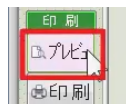
変更終了後、[閉じる] をクリックし、[エリアフォー
ム変更] ウィンドウを閉じます。



3.アルバムの印刷

印刷を確認しましょう。

コマンドバーより [印刷] - [プレビュー] を選択し
ます。



プレビュー画面上的 [前ページ] [次ページ] でペ
ージを切り替えて確認してください。

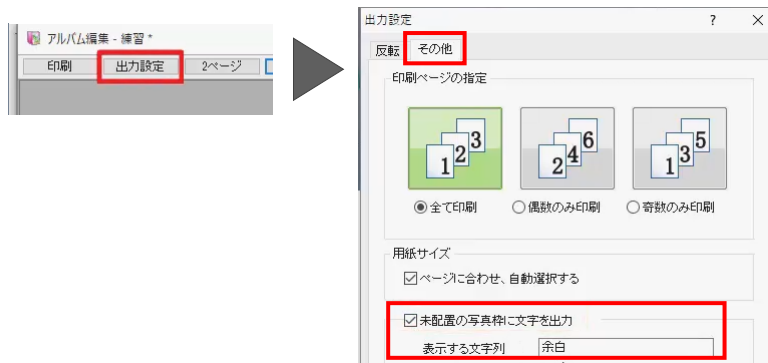


空白部分に文字を入れましょう。

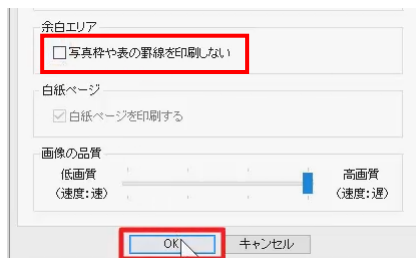
[出力設定] をクリックします。

[その他] タブで [未配置の写真枠に文字を出力]
を ON にし、[表示する文字列] を入力しま
す。

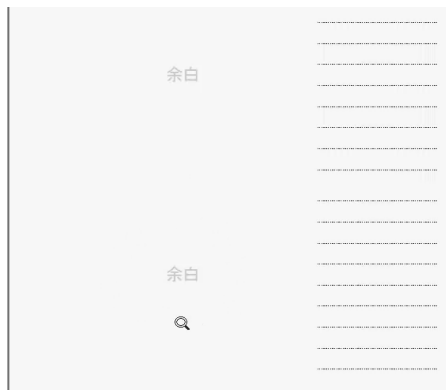
今回は「余白」と入力します。



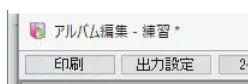
その下の [写真枠や表の罫線を印刷しない] が OFF であることを確認し、[OK] をクリックします。



空白部分に「余白」の文字が表示されたことが確認できます。



設定完了後、[印刷] をクリックし、印刷をおこないます。



今回は [閉じる] をクリックし、プレビュー画面を閉じ、アルバム編集は [終了] を選択します。



保存のメッセージは [はい] をクリックし、連携のための保存のメッセージも [はい] をクリックし、写真管理に戻ります。

4. 写真管理からアルバム起動

作成したアルバムを再度起動してみましょう。

[アルバム作成] ステージで、コマンドバーより [成果編集] を選択します。



開きたいアルバムを選択し、[選択したアルバムを開く] をクリックし、起動します。



以上で EX-TREND 武蔵 写真管理・アルバム編集のご説明を終了いたします。

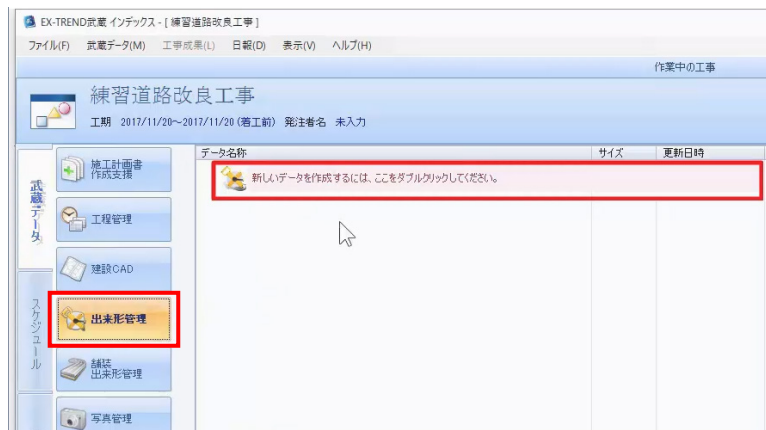
出来形管理

1. 出来形管理起動

EX-TREND 武蔵 出来形管理で、データの入力と帳票を作成しましょう。

EX-TREND 武蔵 インデックスで、作成した工事を選択後の画面からご説明いたします。

プログラム一覧から「出来形管理」をクリックし、「新しいデータを作成するにはここをダブルクリックしてください」をダブルクリックします。



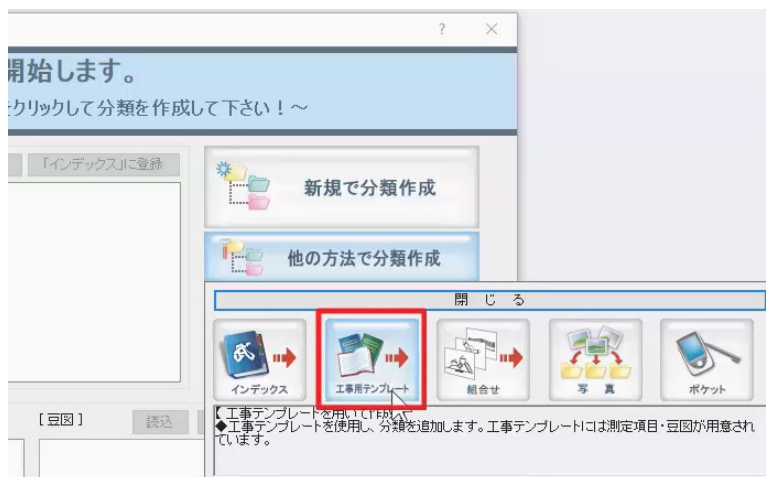
2. 分類作成

作業の開始ウィンドウが表示されます。

出来形データを入力する分類を作成しましょう。

今回は、出来形管理基準に記載されている分類、測定項目、規格値などをテンプレートから読み込みます。

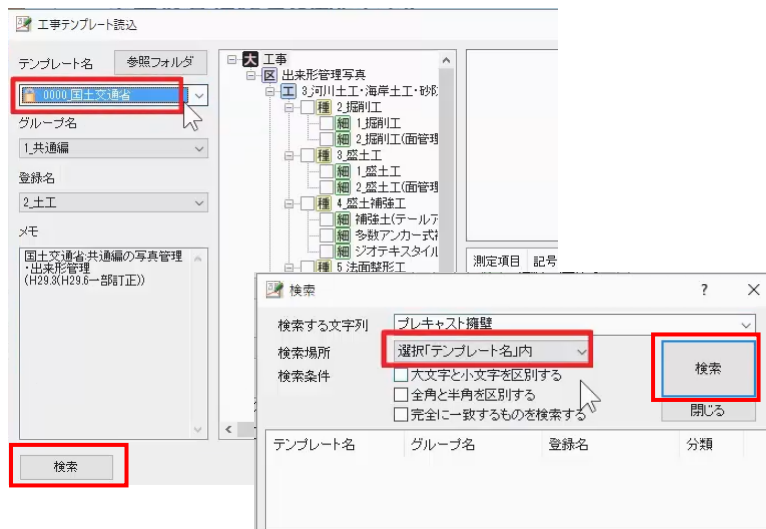
「他の方法で分類作成」をクリックします。
写真管理プログラムで作成したデータがある場合、「写真」をクリックし、「写真分類参照」ウィンドウでツリーを選ぶ方法もありますが、今回は「工食用テンプレート」をクリックします。



ここでは、テンプレート名「国土交通省」を選択し、画面左下の「検索」で「プレキャスト擁壁」を検索してみましょう。

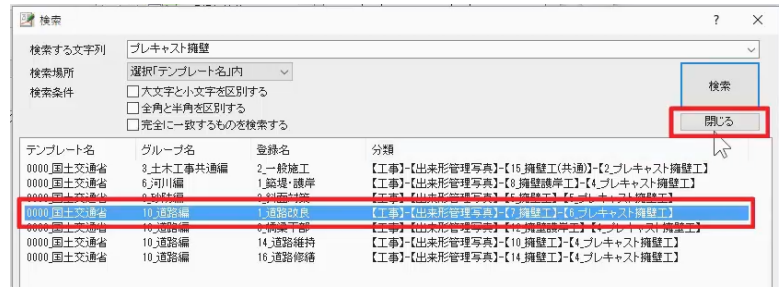
検索場所で「選択「テンプレート名」内」を選択し、「検索」をクリックします。

メッセージは「はい」をクリックします。

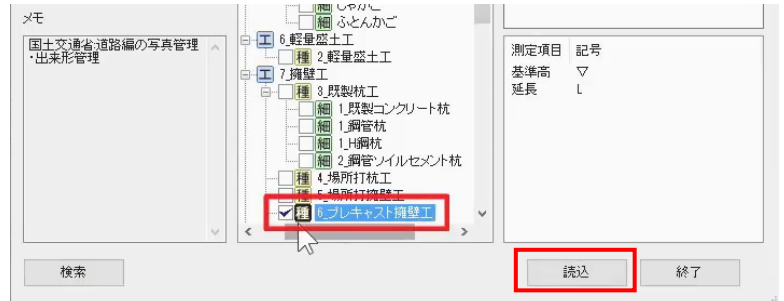


検索結果が一覧に表示されます。

今回は、「道路改良」の出来形管理のため、グループ名「10_道路編」、登録名「1_道路改良」を選択し、**「閉じる」**をクリックします。



【工事テンプレート読込】ウィンドウの分類ツリー番下に表示された**「種別：6_プレキャスト擁壁工」**をONにし、**「読込」**をクリックします。



選択した分類が表示され、測定項目や豆図が同時にセットされます。

分類は、**「ツリー表示」**と**「リスト表示」**に切り替えることができます。



3. 帳票の選択

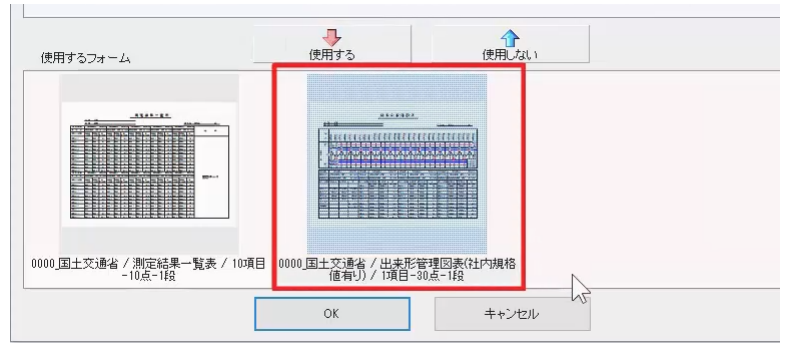
作成する帳票を選択しましょう。

【フォーム】の**「変更」**をクリックします。

グループの選択で「国土交通省」を選択し、すぐ下の**「該当したフォーム」**で今回使用する**「出来形管理図表（社内規格値有り）」**を選んで**「使用する」**をクリックします。



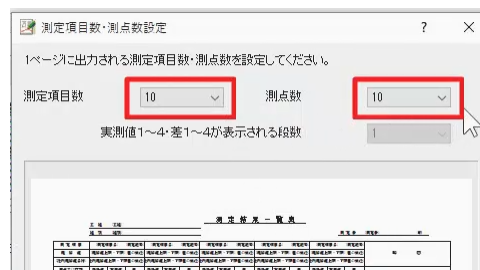
下の「使用するフォーム」に「国土交通省/出来形管理図表（社内規格値有り） / 1項目-30点-1段」が追加されたことが確認できます。



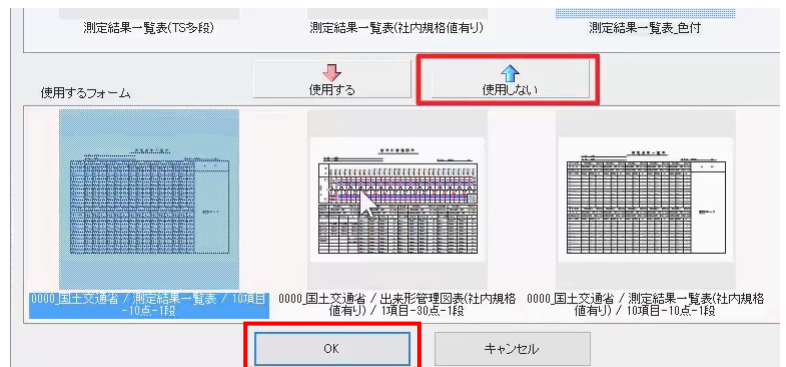
同様に、「測定結果一覧表（社内規格値有り）」を選んで「使用する」をクリックします。



1 ページに記入する測定項目の数と、それぞれの測定項目で記入する測点の数を選択します。
ここでは、どちらも「10」のまま「OK」をクリックします。



「使用するフォーム」に入れた帳票の内、不要なものは、選択して「使用しない」をクリックします。
「OK」をクリックし、メッセージは「はい」をクリックします。

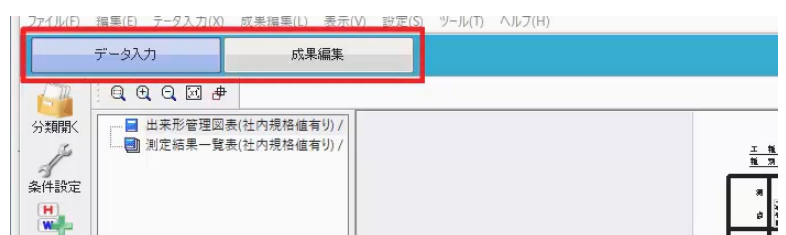


4. 条件設定

「作業開始」をクリックし、出来形管理の入力画面を起動します。

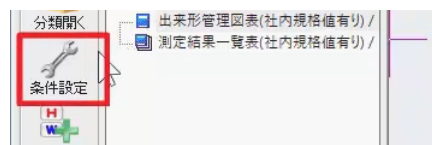


出来形管理には、[データ入力] と [成果編集] の2つのステージがあります。

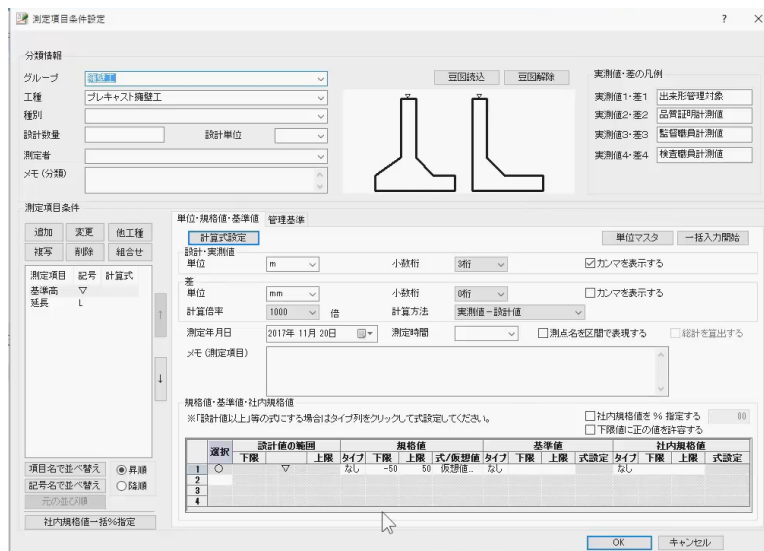


データ入力ステージで測定データを入力し、成果編集ステージでは帳票の確認と編集をおこないます。

コマンドバーより、「条件設定」を選択します。

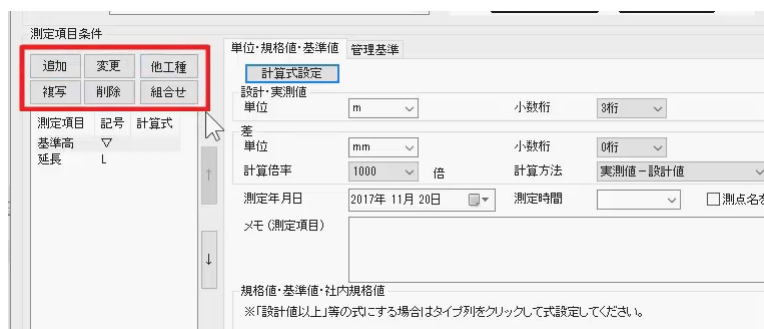


工事テンプレートから読み込んだ分類情報・豆図、規格値等が取り込まれていることが確認できます。



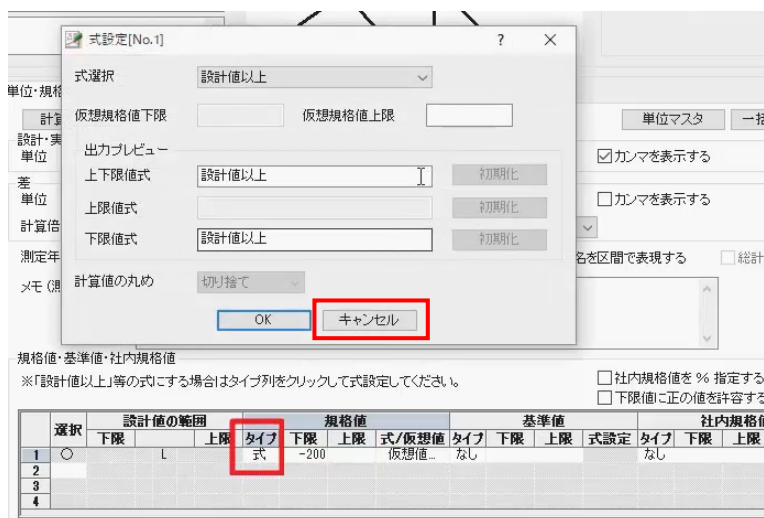
「測定項目条件」では、測定項目の追加・変更が可能です。

測定項目毎に、単位・規格値・基準値タブで、入力単位や小数桁を設定します。



「規格値・基準値・社内規格値」では、タイプセルを「なし」にすることで直接上限下限の値を入力でき、タイプセルをクリックして「式」にすると、「式設定」ウィンドウで式を設定したり、「設計値以上」などに変更したりすることができます。

今回は、「キャンセル」をクリックし、タイプセルを「なし」に戻します。

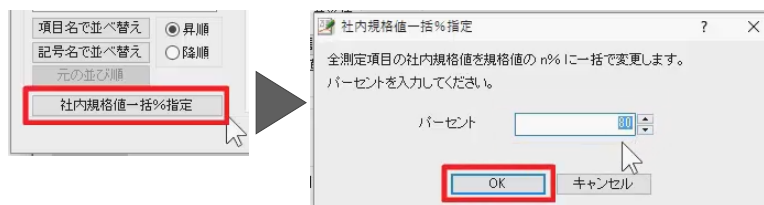


すべての測定項目に一括で社内規格値を設定しましょう。

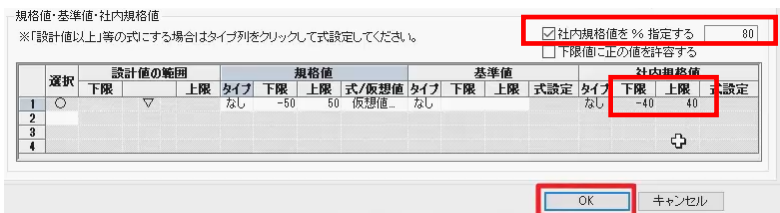
画面左下、「社内規格値一括%指定」をクリックします。

「80」と入力し、「OK」をクリックします。

メッセージは「はい」をクリックします。



「社内規格値を%指定する」が ON になり、「80」の数字が入っていること、それぞれの測定項目で、「社内規格値」の上限下限に「規格値」の80%の値が設定されたことを確認します。



「OK」をクリックします。

5.測点入力

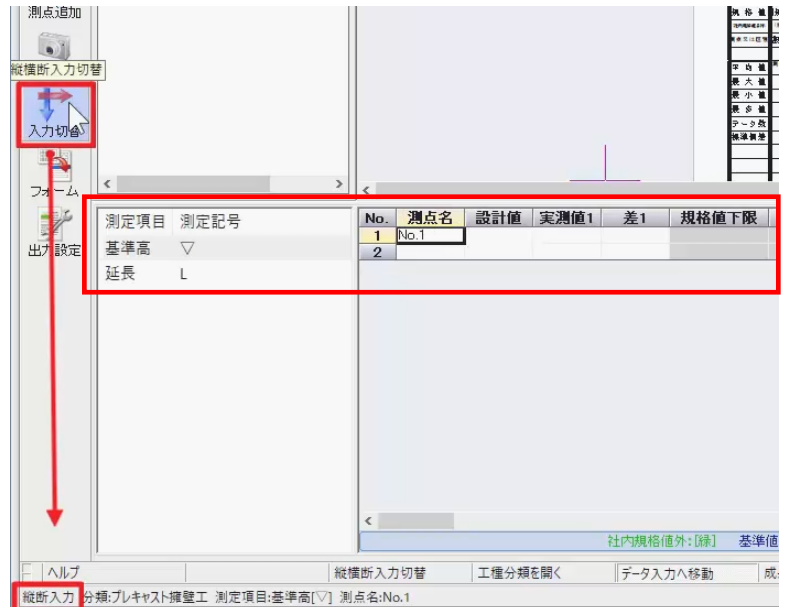
測点名を入力しましょう。

コマンドバーより、[測点追加] を選択します。
測点名「No.1」と入力し、[OK] をクリックします。
画面下の入力欄に、測点名「No.1」が追加されたことが確認できます。



コマンドバーより [入力切替] を選択すると、測定項目と、測点名や設計値・実測値の入力欄が入れ替わり、画面左下のステータスバーで「縦断入力」「横断入力」と表示が変わります。

今回は、「縦断入力」の状態で作成しましょう。



6.設計値・実測値入力

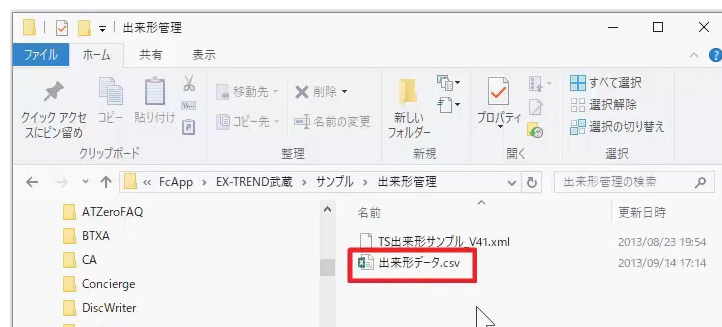
設計値、実測値を入力しましょう。

今回は、控えてきた表形式のデータをコピー貼り付けで取り込みます。

出来形管理は右上の最小化ボタンをクリックし、画面を小さくしましょう。



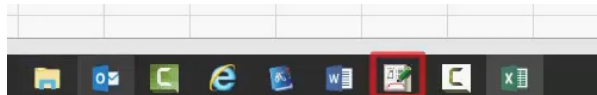
エクスプローラーでインストール先の¥FCAPP
¥EX-TREND 武蔵 ¥サンプル¥出来形管理の出来形データ.CSV をダブルクリックして起動します。



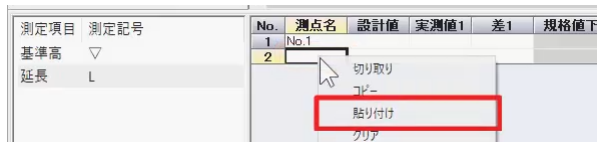
「延長 L」の測点名、設計値・実測値の値を選択し、右クリック [コピー] をクリックします。

測点名	設計値	実測値	基準高	設計値	実測値
1 No.2	20	20	122		
2 No.3	20	20	123		
3 No.4	20	20	124		
4 No.5			125		
5 No.6			126		
6 No.7			127		
7 No.8			128		
8 No.9			129		
9 No.10			130		
10 No.11			131		

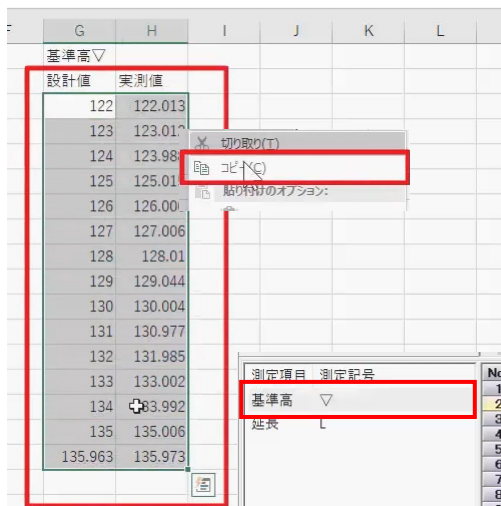
タスクバーの EX-TREND 武蔵 出来形管理をクリックします。



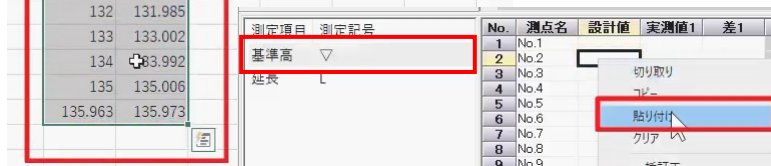
測定項目を「延長」に切り替えて、2行目の測点名の欄にカーソルを置き、右クリック [貼り付け] でデータを貼り付けます。



再度、タスクバーの EXCEL をクリックし、今度は基準高の設計値・実測値の値を選択し、右クリック [コピー] をクリックします。



タスクバーの EX-TREND 武蔵 出来形管理をクリックし、測定項目を「基準高」に切り替えて、2行目の設計値で右クリック [貼り付け] をクリックします。



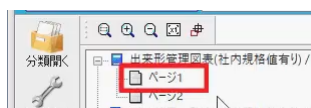
データが入力されたことが確認できます。

No.	測点名	設計値	実測値1	差1	規格値下限	規格値上限	測定日
1	No.1						
2	No.2	122.000	122.013	13	-50	50	
3	No.3	123.000	123.012	12	-50	50	
4	No.4	124.000	123.988	-12	-50	50	
5	No.5	125.000	125.015	15	-50	50	
6	No.6	126.000	126.006	6	-50	50	
7	No.7	127.000	127.006	6	-50	50	
8	No.8	128.000	128.010	10	-50	50	
9	No.9	129.000	129.044	44	-50	50	
10	No.10	130.000	130.004	4	-50	50	
11	No.11	131.000	130.977	-23	-50	50	
12	No.12	132.000	131.985	-15	-50	50	
13	No.13	133.000	133.002	2	-50	50	
14	No.14	134.000	133.992	-8	-50	50	
15	No.15	135.000	135.006	6	-50	50	
16	No.15+19	135.963	135.973	10	-50	50	
17							

7.フォーム選択と出力設定

帳票を確認しましょう。

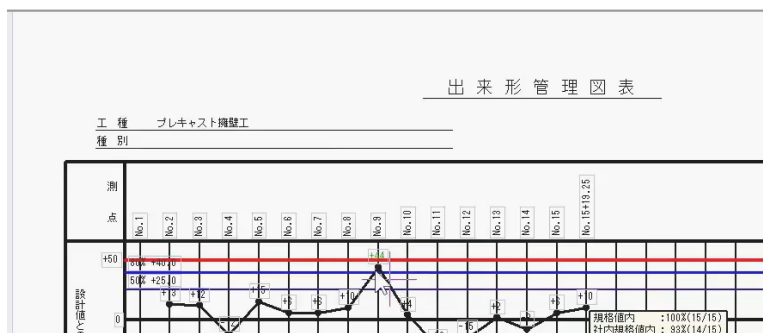
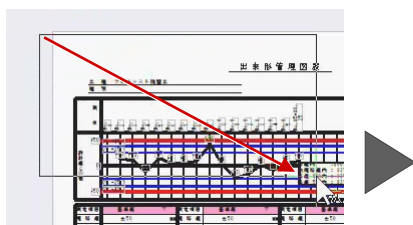
画面左上のフォーム一覧で「+」をクリックし、ページを選択することで、プレビューに帳票イメージが表示されます。



フォーム一覧より、「出来形管理図表（社内規格値有り）」の「ページ1」を選択し、帳票を確認しましょう。

拡大する範囲の左上にマウスを移動し、両ボタンを押しながら、右下にドラッグします。

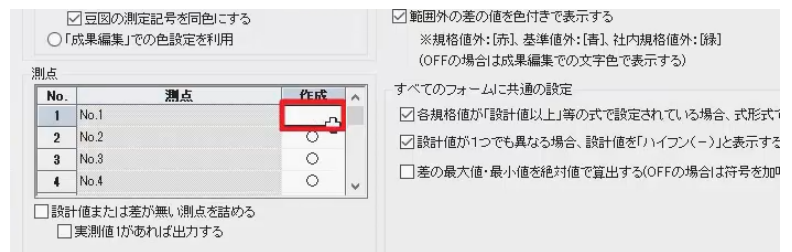
両ボタンを押しながら左上にドラッグすると縮小、両ボタンを押しながら、右上にドラッグすると帳票全体を表示します。



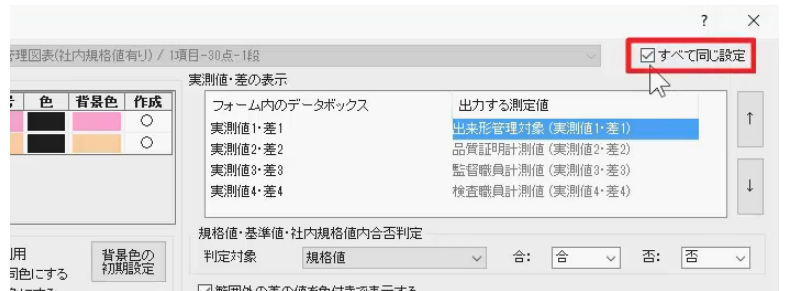
「No.1」の測点はデータが無いので、帳票には出さない設定に変更してみましょう。

コマンドバーより「出力設定」を選択します。

左下の測点で、「No.1」の作成欄をクリックし、空欄にします。



右上の「すべて同じ設定」をONにし、「OK」をクリックします。

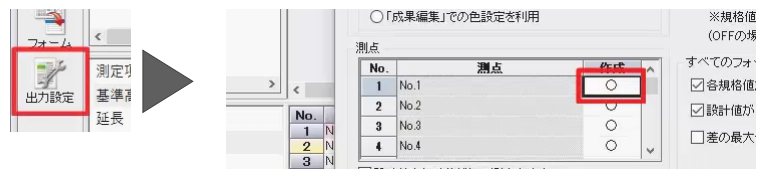


帳票から、「No.1」のデータが消え、入力欄ではセルの背景に色が付いて帳票に出ないデータになっていることがわかります。

No.	測点名	設計値	実測値1	差1	規格値下限	規格値上限	測定日
1	No.1						
2	No.2	122,000	122,010	10	-50	50	
3	No.3	123,000	123,012	12	-50	50	
4	No.4	124,000	123,988	-12	-50	50	
5	No.5	125,000	125,015	15	-50	50	
6	No.6	126,000	126,006	6	-50	50	

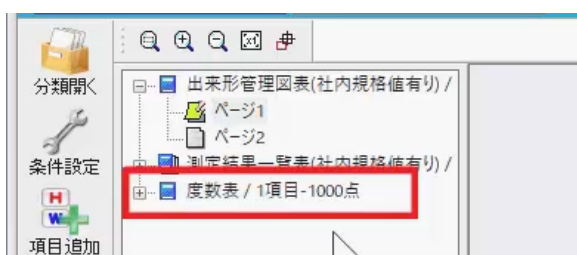
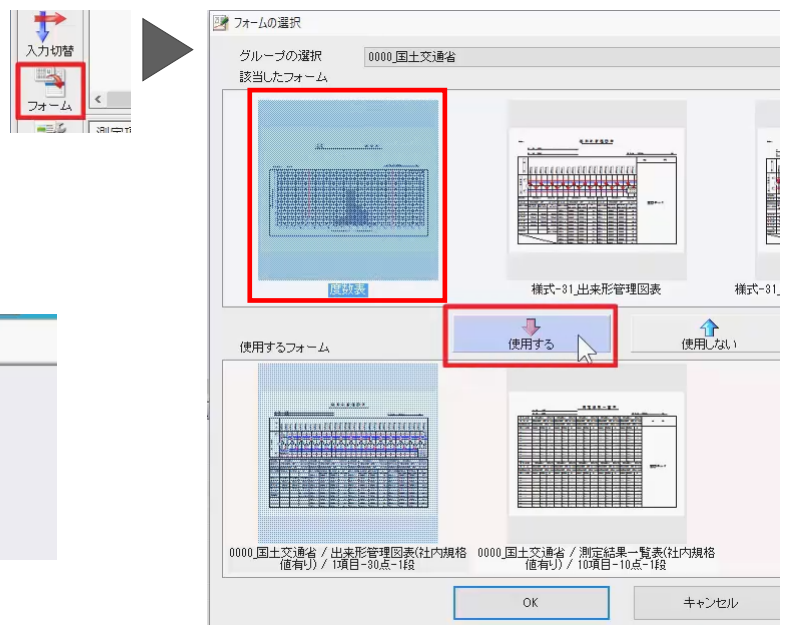
元に戻しておきましょう。

再度コマンドバーより「出力設定」を選択します。「No.1」の作成欄をクリックし、○を入れたら「OK」をクリックします。



度数表を作成しましょう。

コマンドバーより「フォーム」を選択します。該当したフォームから「度数表」を選択し、「使用する」をクリックします。使用するフォームに追加されたことを確認し、「OK」をクリックします。フォーム一覧に「度数表」が追加されたことが確認できます。



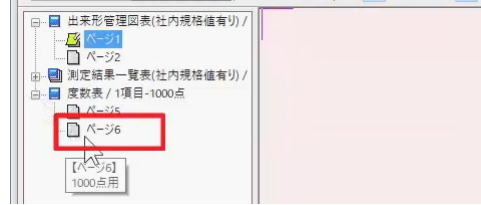
8. 成果編集

帳票を編集しましょう。

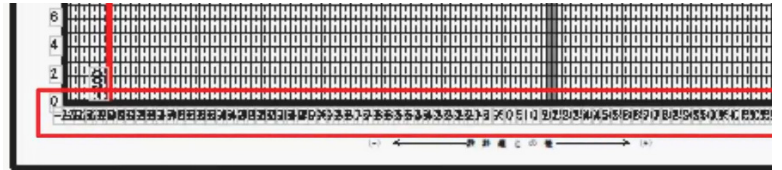
成果編集を選択し、ステージを切り替えます。



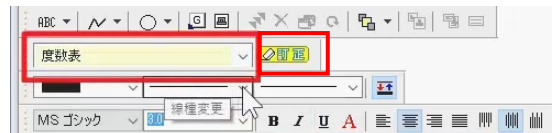
フォーム一覧より、最後の「度数表」ページ6を選択します。



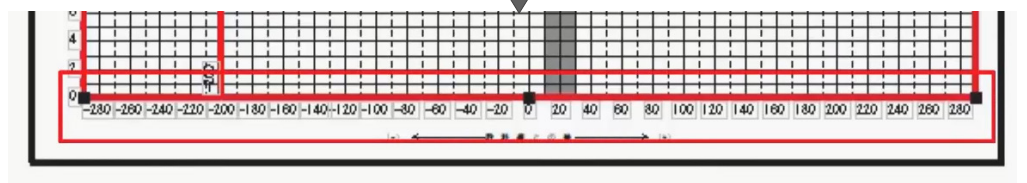
この度数表グラフは、横軸の「設計値との差」の目盛りが細かく表示され見づらいため、見やすく変更してみましょう。



ツールバーの「<選択する要素を指定してください>」を切り替えて「度数表」を選択し、「訂正」をクリックします。



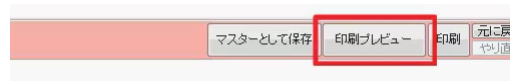
「[度数表設定]」タブを選択します。
差軸の「差の範囲」を「5」から「20」に変更し「[OK]」をクリックします。
グラフの差軸が20ずつに変更し、見やすくなったことが確認できます。



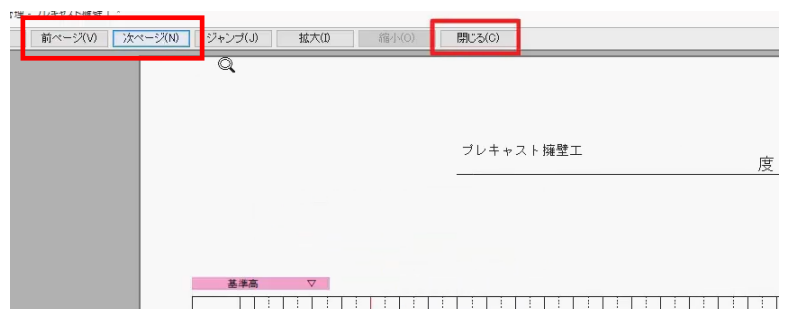
9. 印刷

印刷を確認しましょう。

画面右上の「印刷プレビュー」をクリックします。

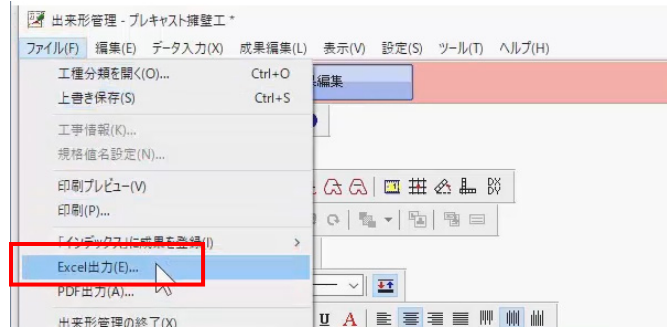


「前ページ」 「次ページ」 をクリックし、他のページも確認します。



今回は確認のみで「閉じる」をクリックします。

EXCEL へ出力する場合には、メニューバーより [ファイル] - [EXCEL 出力] を選択します。



EXCEL 出力では、[成果編集] ステージで編集した内容を保持して出力はできません。出力後に編集をおこなってください。

[キャンセル] をクリックします。



10.保存

保存して終了しましょう。

画面右上の [上書き保存] をクリックします。



上書き保存終了後、画面右上の「閉じる」をクリックし、出来形管理プログラムを終了します。



インデックスの出来形管理にデータが保存されたことが確認できます。

作成済みの出来形管理のデータを起動する場合は、インデックスからダブルクリックで直接起動することができます。



以上で、出来形管理のご説明を終了いたします。